

平成30年6月28日（木）

午後 1時30分 開会

午後 1時52分 閉会

場所： 全員協議会室

〔報告案件〕

1 平成29年度半田市各会計の決算見込みについて

山本卓美総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

2 平成30年度長寿訪問事業について

新村隆福祉部長：資料に基づき説明

質疑なし

〔その他〕

- ・ 公共施設におけるブロック塀等の安全点検について

岩橋平武教育部長：資料に基づき説明

中村宗雄議員：2つ教えてください。まず1つは学校施設を中心に建築基準法に不適合な壁が20か所あったということなのですが、これが不適合な理由というのは、造った時から法が変わって不適合になってしまったのか、そもそも公共事業として不適合なものを造ってしまったのか、その分類が1つ。2点目は、その不適合なものとの損傷が著しいものは早急にやると、この早急というのはどのスピード感のことか、要するに当初予算をみてあるわけではないので、予算が無くて議会を開く暇がないからとりあえず次の時までにはやらないとか、そんなことではなくてどういう早急、スピード感でやっていくのかという2点についてお尋ねいたします。

岩橋平武教育部長：はじめの不適合というところなのですが、当初から基準を満たしていなかったということが確認できました。というのは、どうも検査の対象ではなかったようです。当時30年、40年前に学校を建てたときに建物そのものは検査の対象ということで、法に合った検査をきちっとしておいたようなのですが、当時新たな法改正によって適用外になったわけではなくて、当時も法の対象だったのですが、後から建てたものがあったり、そのときも検査の対象ではなかったようで、法の適用外だったものが建てられたということが確認できました。2つ目ですが早急にというのは、もう見積もりをとって、まだ実際に壊しだしてはいないのですが、始める準備を進めています。予算のほうについては、財政当局とも話し合ってもらいまして、すぐに進めていく予定です。すぐに進めております。

山本卓美総務部長：今の予定としましては、概ね1週間以内に必要額を算出していただきまして、その後本来であれば補正予算を計上するかたちになってまいります。ただし、議会を開く暇がないということで、これは専決処分に対応し

ていただきたい、で、直近の議会で報告をさせていただきたくという手続きでまいりたいと考えております。

中村宗雄議員：では、すみません、もう一点だけ。素早くやっていただけるのはそれでいいと思いますが、先ほど言われていた、検査の対象ではなかったのに、きっと設計図書の段階ではきちんとした画が書いてあったのだけど、検査の対象ではないので、業者の方が十分なものを造らなかったから基準外のものになってしまっているという認識ですか。

岩橋平武教育部長：なにぶんにも、学校が建ったのが30年、40年前なものですから、確実なことは言えないのですが、法がその後厳しくなったとかそういうことではないことは確かです。検査の対象ではなかったという事実だけが確認できておりますので、それ以上のことは私どもから当時手抜きだったとかそういうことまでは言えません。

中村宗雄議員：僕が言っているのは、何事もそうなのですが、責任の所在というのがあると思うのです。それを昔のことだから、全部が30年前ではないと思うのです。古いもので30年前のものがあったり、ひょっとしたら直近新しいものは10年以内のものもあったりすると思うのですが、僕が言っているのは、こういう不出来なものが出来てしまっているわけなのですが、これは税金を投入してやっているのですよね。半田市側に落度がなければ、設計図書がきちんと作ってあったのだけでも、検査の対象外としていたから検査をしていなくて、改めて見てみたら画と違うものが造ってあって不適合だと言っているのか、実は設計図書も法に照らし合わせてなくていい加減に書いてしまっていたものだから、造ったものは設計図書と合っているのだけれども、設計図書が法に適合していなかったのか、そのどちらかということによって責任の所在が違ってくると思うのですね。その責任を求めるかどうかは別としても、責任の所在はどちらにあるかということだけは、はっきりさせておかないと、昔のことだからしょうがないではないと思うのですよね。どちらなのでしょう。

岩橋平武教育部長：半田市の建物ですので、私どもがきちっと最後に検査をする必要があったと思いますので、そういった意味では半田市が、確認が漏れていたということで責任が私どもにあると思っています。

石川英之議員：先日、文教厚生委員会でも少しお話させていただきましたけれども、早急に対応、撤去、改良しなければいけないと思っているということは、これは危険だという判断をしていると思うのですね。それを、今、見積もりを取っている、業者を決めるまで待っている、なんでそんな悠長なことをしているのかと思います。先日も言いました、岐阜のある小学校は、トイレの入り口にパイロンとテープを貼って、危険だから近寄るな、危険ならなぜ撤去しないのか、あんなもの映像で流されたら全国の晒し者ですよ。なんでこんな悠長なことをしているのですか。壊すぐらい人海戦術で市の職員が行って、たたいて壊してしまえば、もう危険はなくなるのですよ。これは壁が無ければ危険だ、ではなくて、ある壁が危険なのですよ。だから撤去しようとしているのではないのですか。それをなんでこんな、だからお役所仕事と言われるのですよ。僕は今回この件についてはすごく熱くなっている。というのは、僕はあの大阪の震度6弱のときに実際大阪にいました。それを体験しました。震度6弱を生れてはじめ

て、気持ちも悪かったし、何とも言えない感覚に襲われました。そういう中で岐阜のお恥ずかしい映像が流されて、何で似たようなことをやっているのですか。いつ来るかわからないですよ。正直、地震なんて揺れてからJアラートが鳴りましたから。予知できないのですよ。大きな台風が来るから、急いでこれ壊そうといって壊せるならそれでもいいけど、地震なんて本当にいつ来るかわからないものに、危険だといってなぜ放置しているのです。みんなで壊しにいきましょうよ。そういった対応を考えたことはないのですか。

榊原純夫市長：申し訳ありません。私も地震が起きてすぐ特に学校施設、公共施設はチェックをするように指示をして、実施をしましたが、即時壊すこと、本当は私が先頭になって、掛矢か何か持って壊すべきだったと今思っていますので、とにかく一刻も早く撤去ができるように最大限の努力をさせていただきます。申し訳ありませんでした。

加藤美幸議員：学校などは塀がなくなってしまうと、防犯とかそういうことで、問題が生じるかと思いますが、壊した後は基本的に生垣だったりとか、金属のフェンスだとかそういう指針はあるのですか。

岩橋平武教育部長：指針というわけではありませんけども、すぐ次のもの、それは場所によっては金網のフェンスであったり、場所によっては改めてコンクリートを法に適したものをやるだとか、そういうことで学校の中に不審者等が入らないようにという意味でやっていきます。

午後 1時52分 閉会